

# ■競技注意事項(T&Fの部)

## 1. 競技規則について

本大会は最新の WA 競技規則、2025 年度日本陸上競技連盟競技規則、競技会における広告および展示物に関する規程、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

## 2. 招集について

- (1) 第一次招集は、マラソングート内招集所にて行う。番組編成にある本人の組・レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。その際、競技中に着用するユニフォーム・胸アスリートビブス・腰ナンバーカード・競技使用予定シューズ・商標の確認を受けて招集完了とする。確認後は招集完了時刻まで招集所内に待機することとする。
- (2) 5000m、10000m、10000mW に関しては、第一次招集時に腰ナンバーカード(右腰)に加え、トランスポンダー付きの腰ナンバーカード(左腰)と番号をあわせた長距離専用別アスリートビブスを配付する。また、2 枚の腰ナンバーカードおよび長距離専用別アスリートビブスは競技終了後、必ず競技者係に返却すること。
- (3) リレー競技の第一次招集は、出走者 4 名全員が受けること。その際に、アスリートビブス・商標・同一ユニフォームであるかを確認する。
- (4) TR24.12 に関わらず、リレーオーダー用紙は、第一次招集開始の 10 分前までに TIC へ提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。(「3. 欠場について」参照)
- (5) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は、本大会の医師、医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければチームは失格となる。
- (6) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の招集を受けられない競技者は、当該種目の第一次招集完了時刻までに重複出場届をマラソングート内に設ける TIC に提出すること。
- (7) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第一次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。
- (8) 重複出場届を提出した代理人は第二次招集に参加し、出発係にその旨を報告し本人が来るまで責任を持つこと。
- (9) 招集は、招集所にて下記の通り行う。

競 技	第一次招集		第二次招集
	招 集 開 始 時 刻	招 集 完 了 時 刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前	競技開始 10 分前
跳躍競技(棒高跳以外)	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前	競技開始 30 分前
投 擲 競 技	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前
棒 高 跳	競技開始 100 分前	競技開始 90 分前	競技開始 60 分前

- (10) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届・混成競技途中棄権届はマラソングート内に設ける TIC にて配布する。

## 3. 欠場・選手変更について

- (1) 5 月 2 日(金) 正午までに事前欠場届を関西学連(icaak.rec@gmail.com) までメールにて提出すること。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。やむを得ない場合に限り、当該種目の競技当日に、当日欠場届を当該種目の第一次招集開始時刻までに TIC に提出することで欠場が認められる場合がある。
- (3) 当日欠場届には、監督および本人のサインを記入すること。ただし、大会当日に監督が不在の場合は、事前に監督代行届を提出している場合のみ、申請した代理人の署名を認める。
- (4) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満たし、第一次招集開始 10 分前(リレーオーダー用紙提出締切時刻) までに当日欠場届を提出すること。

- (5) 混成競技において途中棄権する場合は、必ず混成競技係に申告の上、混成競技途中棄権届を早急に TIC に提出すること。
- (6) 男子 2 部 800m 予選については、5 月 6 日 (火) 正午の時点での出場予定人数が 20 名以下となった場合、2 組 (3 着+2) に再番編を行う。

#### 4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のデザインのユニフォームを着用すること（提出したユニフォームと異なれば出場を認めない）。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。異なる形状のユニフォーム（トップス・ショーツ・ハーフタイツなど）を使用する場合も、事前に学連に提出し、色・デザインを統一させること。
- (2) 競技会における広告および展示物規程により、競技場内で着用できる衣類等に掲出できる製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴの大きさ、数については、HP 掲載の別紙『競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕』を必ず確認すること。違反した場合にはテープ等でマスキング処置を行う。
- (3) アスリートビブスは必ず本大会用のアスリートビブスを使用し、ユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせずに明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけでよい。
- (4) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。ただし、1500m 以上からは両腰につけること。腰ナンバーカードは招集所にて配布する。
- (5) 混成競技の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地にて受け取ること。
- (6) 本大会は TR5.2 ルールを適用し、規格外のシューズ使用は全て禁止とする。

#### 5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし、個人所有のやり・砲丸・円盤・ハンマーの使用を希望する場合は、競技開始の 90 分前から 60 分前に検査を受けて許可を受ければ、2 個まで使用することができる。検査は用器具倉庫 (100m ゴール付近) で行う。ただし、検査時間が開門以前となる場合には、正面玄関にて検査を行う。
- (2) 棒高跳用ポールは、各自で持ち込んだものを使用すること。
- (3) リレーおよびフィールド競技のマークは、養生テープを使用すること。競技場保護のため、それ以外のテープは認めない。

#### 6. 混成競技について

- (1) 別紙「混成競技申し合わせ事項」に従うこと。競技時間の遅れなどは、アナウンスで連絡する。

#### 7. トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定 (0.01 秒) とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時 (0.1 秒) とする。
- (2) 5000m・10000m・10000mW に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り 1 周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	10000m	10000mW
男 子 1 部	17 分	34 分	55 分
男 子 2 部	17 分	36 分	55 分
女 子	20 分	40 分	60 分

- (3) 5000m 以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。
- (4) 救急搬送防止および選手の安全確保のため、関西学連役員が競技者の体調を見て、医師または医務員と協議のうえレースを中止させる場合がある。その場合、必ず指示に従うこと。
- (5) 本競技会は SIS (スタートインフォメーションシステム) を使用しない為、スタート時の不適切行為及び不正スタートの判断は目視で行う

8. フィールド競技について

(1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

競技	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	1 部	A	1m90	2m10 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	2 部	A	1m85	2m05 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	女子	A	1m55	1m70 まで 5cm 刻み、以降 3 cm刻み
	十種	A/B	1m50	一律 3cm 刻み
	七種	A/B	1m25	一律 3cm 刻み
棒高跳	1 部	A	3m80	4m80 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	2 部	A	3m60	4m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	女子	A	2m80	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	十種	A/B	2m60	一律 10cm 刻み

(2) 練習の高さは以下の通りとする。

競技	種別	練習の高さ
走高跳	1 部	1m85/2m00
	2 部	1m80/1m95
	女子	1m50/1m65
	十種	1m50/1m65/1m80
	七種	1m25/1m40/1m55
棒高跳	1 部	3m80/4m40/5m00
	2 部	3m60/4m20/4m80
	女子	2m80/3m40/3m80
	十種	2m60/3m40/4m00/4m80

- (3) 悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・関西学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (4) 競技者が 1 人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2 つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて 1 人になった場合に限る。
- (5) 三段跳の踏切板の位置は、男子は 13m、女子は 10m とする。
- (6) 走幅跳（混成競技含む）及び三段跳の踏切判定には、粘土板を使用する。（ビデオカメラは使用しない）
- (7) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- (8) 投擲種目の公式練習は 2 回までとする。ただし、ハンマー投は 1 回とする。
- (9) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことが出来る。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・関西学連等で協議し対処する。（競技規則 TR6. 2）

9. 対校得点について

(1) 各種目の対校得点及びボーナス得点は下記の通りとする。なお、ボーナス得点は 1 選手につき全ラウンドを通じて 1 回限り、該当する最大得点のものを与えるものとする。

[対校得点]

順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
対校得点	8 点	7 点	6 点	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点

**[ボーナス得点]**

日本新記録	30 点	日本タイ記録	25 点	日本学生新記録	20 点
日本学生タイ記録	15 点	関西学生新記録	10 点	関西学生タイ記録	7 点
大会新記録	5 点	大会タイ記録	2 点		

- (2) 総合得点が同点の場合は、優勝種目数の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は 2 位種目数の多い大学を上位とし、以降 3～8 位まで同様に比較する。以上の点で同じ場合は同順位とする。
- (3) 当日欠場届未提出およびコール漏れ（現地招集を含む）については、1 件につき所属大学の総合得点より 1 点の減点を行う。また、リレー種目についても（オーダー用紙未提出含む）同様に 1 チームにつき所属大学の総合得点より 1 点の減点を行う。

## 10. 抗議・上訴の申し立てについて

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表されてから、30 分以内に、その競技者あるいはチームの監督が口頭で TIC を通じて審判長に申し出なくてはならない。（競技規則 TR8. 2-3）
- (2) 審判長の裁定に不服な場合には、ジュリーに上訴できる。審判長裁定後 30 分以内に、TIC にて上訴申立書を記入し、委託金 1 万円を添えて提出すること。その結果は最終的なものとなる。（競技規則 TR8. 7-2）

## 11. 悪天候や自然災害等発生の際の対応

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、関西学連会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) 中止種目の得点は、どの大学の対校得点にも加算しない。
- (3) 対校戦として成立するには、対校種目数の 4 分の 3 以上（男子 1 部 23 種目のうち 18 種目以上、男子 2 部 23 種目のうち 18 種目以上、女子 23 種目のうち 18 種目以上）の決勝の実施が必要となる。対校戦として成立しない場合には、1 部と 2 部の入れ替えも行わない。
- (4) 中止となった種目のエントリー料の返金は行わない。

## 12. その他

- (1) 記録の正式発表は大型ビジョンにて行う。
- (2) 事前欠場者の人数により、番組編成を変更する場合がある。
- (3) 競技終了後は必ずミックスゾーンを通過し、主催者が許可した報道関係者の取材を受けること。また表彰終了後もインタビューを受けることがあるので協力すること。フィールド競技に関しては、現場の競技役員の誘導に従い、まとまって退場すること。
- (4) 記録証明書の発行を希望する場合は、正面玄関に設けるインフォメーションセンターへ発行手数料 300 円を添えて申し込むこと。
- (5) 競技場内へ立ち入る際、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判・補助員も同様とする。
- (6) 競技者は競技区域内にビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。（競技規則 TR6. 3. 2）ただし、フィールド種目に出場している競技者は映像を撮影した人とコミュニケーションをとりながら録画再生機器を手にしても良い。（競技規則 TR6. 4. 5）
- (7) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (8) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。

**関西学生陸上競技連盟**